



会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
発行責任者 横地常広
編集責任者 深澤恵治

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722
ホームページ <http://www.jamt.or.jp>

- P1 2024年度 医療技術部門管理資格認定制度 集合研修(夏)を開催！
P2 令和6年度認定救急検査技師制度第1回 指定講習会(関東)開催報告
P3~P4 京都嵐山耐熱リレーマラソンに臨床検査技師が参加！
P4 全国「検査と健康展」2024

2024年度 医療技術部門管理資格認定制度 集合研修(夏)を開催！

この制度は臨床検査部門だけの管理者に留まらず、将来それぞれの職場で医療技術部門のリーダーや経営管理も担える人材を育成するために創設された認定制度です。事前にeラーニングでの講義を受け、一定レベルの内容を習得、夏と秋に行われる集合研修を受けることで受験資格が得られます。

本年度も8月3日(土)～4日(日)の2日間、夏の集合研修が開催されました。夏の集合研修は「医療版論理的思考&コミュニケーションをマスターする」をテーマに、20名が受講し、自分の意思を正確に伝え、相手を納得させるための相手の立場に立った考え方・話し方、交渉力や折衝力といった管理者に必要な不可欠なスキルを学びました。

◇ 参 加 者 か ら の 感 想 ◇

【1日目】

オリエンテーション

論理的思考

- ① イシューを押さえる
- ② イシューを押さえる、枠組みを考える、演繹法・帰納法
- ③ イシューを特定する、枠組みを考える

講師：株式会社wish-alize 代表取締役CEO 谷内 要亮

【2日目】

論理的思考

- ④ 仮説を立て検証する、課題解決ステップの構築
- ⑤ 認定試験のポイント

論理的思考 コミュニケーション編

- ① 話すことによって相手に動いてもらう、総合演習
- ② 大きく(聞く・聴く・訊く)ことによって相手に動いてもらう①
(コーチング基礎)
- ③ 小さく(聞く・聴く・訊く)ことによって相手に動いてもらう②
(コーチング基礎)

講師：株式会社wish-alize 代表取締役CEO 谷内 要亮
(敬称略)

臨床検査技師はコミュニケーションが苦手という方が多いようです。私もそうです。本研修会ではコミュニケーションを円滑にする手助けとなる内容が学べるため、管理者だけでなく、様々な立場の人が受講し、身につけてほしい内容であると感じました。

大西 雄介(医療法人社団綾和会 掛川東病院)

「医療版論理的思考&コミュニケーションをマスターする」というテーマで、講義とグループワークで学ぶ2日間でした。日頃から問題があるとよく考えて取り組んでいると思っていましたが、その考えはすぐに変まりました。1日目の最初のグループワークで、論理的思考が思った以上にできてなかった！深く考えているようでできてなかった！と実感させられました。論理的に思考していくには無意識で考えていることを意識化していく必要があり、これがすごく難しい…しかし、講師の谷内先生がグループワークごとにわかりやすく説明してくれるので1日目の終盤には無意識を意識化して論理的思考を意識しながら課題に取り組んでいくようになっていました。2日目もコミュニケーションを叩き込んでいくため、たっぷりグループワークを行います。2日間を通して論理的思考やコミュニケーションを膨大なグループワークを通して徹底的に叩き込んでいくことで自身のアップデートにつながり、とても多くのことを学び持ち帰れる研修だと思っています。医療技術部門管理資格認定を志す方だけではなく、多くの方に体験していただきたい研修会と思いました。

福田 賢次(横須賀共済病院)

当日の会場では少人数でグループワーク等を行い、発言がしやすい和やかな雰囲気でした。研修会では理論的思考においてはイシューを特定することが重要で、イシューの特定ができていないと、議論がまとまらなかったり、コミュニケーションがうまくできないと学ぶことができました。また、イシューに対する結論に説得力を持たせるための枠組みを考える訓練も行いました。研修会で学んだ内容が「わかる」ことと「できる」こととは異なるので、今回の研修内容を業務に活用し円滑なコミュニケーションを実践していきたいと思いました。

また、異なる環境で業務をされている方の考え方に触れることができ、自院でも活用できればと思いました。

令和6年度 認定救急検査技師制度 第1回 指定講習会(関東)開催報告

テーマ：救急と災害医療

認定救急検査技師制度は、救急患者の診療において適時かつ適切に対応することができる臨床検査技師の育成ならびに知識と技術の普及のために設立された認定制度です。

認定試験受験及び資格更新に受講が必須となっている、認定救急検査技師制度指定講習会では救急診療の情報を把握し救急診療を理解すること、救急患者に対して現状の検査機器を有効に用い安全・迅速・円滑・適切な検査ができる技術や知識、といった認定救急検査技師に必要な知識・技術を習得していただくことを目的に、テーマ毎の講習を行っています。

令和6年度の第1回指定講習会(関東)は災害医療をテーマとして開催されました。受講者からの感想を紹介します。

柴田 陽来 (東京大学医科学研究所附属病院)

本講習会では「災害医療」をテーマに、医師・看護師・臨床検査技師の先生方に講演していただいた。その中で特に印象的だったのが、災害支援ナースとして活躍されている看護師の体験談である。災害発生後の医療支援にて、現地の医療スタッフや既に派遣されているDMATのメンバーらは先の見えない支援活動の中、休みなく活動し続けるため、“隠れた被災者”になるという話だった。災害現場では現地の被災者にばかり焦点が行きがちだが、周囲の医療スタッフに対する配慮も忘れてはならないことを知った。

私もいずれ災害現場に実際に赴き、医療支援を行う立場になりたいと考えている。本講習会を通して、普段病院のルーチン業務だけでは得ることのできない知見を得ることができた。今後もこういった勉強会に積極的に参加し、救急医療を担えるような人材になれるよう、視野を広げていきたい。そして、災害のような“不測の事態”に陥った際、自分に今何ができるかを考え続けていきたい。

松岡 優 (埼玉医科大学病院)

今回の指定講習会は全体を通しての大きなテーマが「災害」であったので、すべての講演が災害に関する内容であった。一昔前は「天災は忘れた頃にやってくる」と言われていたが、昨今では毎年のように日本のどこかで自然災害、人為災害がニュースになっている。今年だけでも1月1日には能登半島地震(自然災害)、1月2日には羽田空港事故(人為災害)、7月25日から秋田・山形の大雨(自然災害)など多くの災害が発生しており、災害に対する備えの重要性は益々増え続けていると思われる。今回の講師の方たちの多くは能登半島地震の発生後にDMAT隊員の一人として現地に入った方であった。豊富な写真と貴重な経験談から災害への備えの大切さを痛感した。「災害への

《内容》

災害医療概論

日本医科大学付属病院 救命救急科 五十嵐 豊

災害医療の実践

日本医科大学付属病院 救命救急科 五十嵐 豊

災害・感染拡大時に備える検査技師として知っておきたいBLS

永生病院 検査科 高橋 貴行

災害医療における多職種の活動

近畿大学病院 看護部 倉又 佳代

災害時における院内検査体制

東京医科歯科大学病院 検査科 小澤 優貴

(敬称略)

備えは自発的に行わなければならない」「いざという時のために繰り返しの訓練が大切である」など多くの言葉が胸に染みしました。イメージトレーニングをしっかり行い、再度自施設検査室の災害対策について見直しを行おうと思いました。この企画をたててくれた委員の皆さまに深謝いたします。

講習会場の様子



京都嵐山耐熱リレーマラソンに臨床検査技師が参加！

これまでも都道府県技師会での独自の活動や様々な現場で活躍する臨床検査技師について紹介してきましたが、今回は仕事・行政との連携のような堅苦しい話題ではなく、臨床検査技師がチームとなって地域のマラソン大会に参加した報告をいただきました。所属施設・都道府県を超えて交流を楽しんだ様子をご紹介します。



ランナー代表：尾花 康子

（一般社団法人京都工場保健会）

8月4日（日）、京都府臨床検査技師会（京臨技）：横山理事、荻野監事、白波瀬顧問、上坊さん、筆者、大阪府臨床検査技師会（大臨技）：竹浦氏（日臨技副会長）（順不同）の臨床検査技師6名で灼熱の中リレーマラソンに参加してまいりました。



本レースはフルマラソンの距離、42.195kmを制限時間4時間10分以内に、襷を繋ぎリレー形式で走ります。レースの1ヶ月前に、メンバーが集まり練習を行ったのですが、暑すぎて4kmを走るのが関の山でした。正直この時点で、私自身も含め完走が危うくなりましたが、京臨技のマスコットキャラクター“はっけんくん”を使用したチームTシャツを作成することができ、働く施設は異なってもチーム力がグッと高まりました。熱くても、しんどくても次のランナーへ繋げる襷の重みは大きかったのですが、完走したい思いが1つになり、3時間46分で無事完走致しました。フルマラソンは前半で頑張りがすぎると後半失速します。リレーマラソンは、失速してきたところで次のランナーへバトンタッチでき、一人でフルマラソンを走る記録より遙かによりタイムで完走ができます。仕事も、業務量が多く疲れてきたなと感じてきたら自分ひとりで抱えず

に、他のSTAFFに1つでもバトンタッチすれば効率のよい仕事ができます。バトンタッチする際も相手のことを考え、受け取りやすくすることもリレーマラソンとよく似ています。臨床検査技師という繋がりから、襷を繋ぎ完走という目標を心ひとつにして達成した時は感極まりました。

また、Tシャツの“はっけんくん”と「走れ！臨床検査技師」の文字をみて、仕事の内容に関しての取材も受け、臨床検査技師の知名度貢献にも役立て、さらに完走と二重に満足できたよき1日となりました。

応援隊代表：宮井 優（京都保健衛生専門学校）

5月の京臨技理事会後にとある理事から「マラソンに来ませんか？」と声をかけていただきました。その瞬間、私の脳内に巡ったのは学生時代の徒競走、リレー、持久走、シャトルラン…どれにおいても「走る＝辛い苦しいこと」だったので、返答に時間がかかっていると「応援隊として！」と明るく言われ、自分が走るわけではないことに安堵しました。この安堵と同時にスポーツ観戦に無縁な私は、なんだか面白そうという気持ちでその提案に「いいですね。ぜひ行きたいです。いつ頃ですか？」と快諾し、返ってきた次の言葉にまた驚かされるのでした。「8月の耐熱リレーマラソンです」そのとある理事というのが、我がリーダー尾花理事です。

京都という土地は盆地に囲まれ、高温多湿でまさに“何もしていなくても暑い”日が続いています。マラソン当日は少し曇があったものの最高気温は約36℃で、「ほんまにこんな暑さの中走らはるんやろか」と、憂いて集合場所に到着しました。リレーマラソンはフルマラソンの距離（42.195km）を数名のチームでたすきを繋いで走られます。今回は京臨技理事を中心に様々な分野・年代の臨床検査技師が集まり本番に挑まれました。

私が応援に行って一番驚いたのは「ランナーの方々も応援している人もすごく楽しそう」ということで



す。ランナーの皆さんは灼熱の中でも凄く一所懸命で、キラキラしていて楽しそうで、そして真剣に目の前の道に挑まれていました。その姿に私含めて応援している人も巻き込まれて、白熱していました。前述した通り、私は走ることは辛く苦しいことという意識がありましたが、楽しそうに全力で取り組む方々を見て感動し、心を躍らされました。

これは私生活でも、社会生活を送る上でも繋がることだと感じます。臨床検査技師として業務の幅が広がり、責任が増え、不安なことに挑むとき、やりたくない仕事をやらねばならないとき、“楽しんでやってみる”ことを意識して行うことで、自分自身を鼓舞し、その姿を見た同僚や後輩、上司を良い意味で巻き込んで

でいけるのではないのでしょうか。そして、私も楽しいでいる人にどんどん巻き込まれていきたいです。

改めまして今回巻き込んでくださったランナーの皆さま、完走おめでとうございます。



全国「検査と健康展」2024

11月11日は「臨床検査の日」です。日臨技では毎年11月を「臨床検査と健康・普及啓発月間」と定め、一般の方々に臨床検査技師という職業を知っていただくため、さまざまな企画を盛り込んで国民参加型の全国「検査と健康展」を全国各都道府県で実施しています。今年は全国47都道府県で開催を予定しています。会員の皆様におかれましても、ご家族、ご友人、知人の方へお声掛けいただき、お近くの会場に是非、ご参加ください。

中央会場：岐阜県 イオンモール土岐

日時 令和6年11月10日(日) 10:00～15:00

入場無料

様々なコーナーを準備してお待ちしております。



**近くの会場に
行ってみよう!**

※中央会場以外にも各地で開催されています。

全国「検査と健康展」 2024 IN岐阜

健康な生活を送るために・・・
臨床検査を見てみよう！ 知ってみよう！

11月10日(日) **10時00分～15時00分**

会場：イオンモール土岐 イオンホールA・B

・特別講演
講演： 午会11時45分～12時45分まで（先着100名）
講師： 医師 戸田 直人先生
（一社）日本臨床検査専門医会 理事長
富山県立中央大学医学部 予防医学センター・産業医

テーマ：メタボリックシンドロームについて

・検査技師の仕事紹介
①シミュレーターを使ったエコー検査の疑似体験
②体内臓器を指差して見てみよう（臓器模型と人体模型の観察）
③認知症による検査（検査結果を用いた認知症検査）
④ハズレ検査（検査結果のゆがみ、検査の検査、血液の検査）
⑤手洗いチェック（フロッグライトを用いて正しい手洗いチェック）
⑥ストレスチェック（検査結果のグラフを基にしたストレスチェック）
⑦認知症チェック（物忘れプログラムを用いた認知症チェック）
⑧物忘れチェック（コンピュータ）
⑨遺伝子検査の紹介（新型コロナウイルス感染症と検査結果）

・医師による健康相談

・臨床検査技師になるために（学生向け）

高松市立中央病院 臨床検査科の学生・先生との対話
高松市立病院で働く検査技師との対話
山梨県立中央病院 臨床検査科の学生・先生との対話

主催団体：一般社団法人日本臨床検査専門医会、一般社団法人岐阜県臨床検査技師会
共催団体：一般社団法人日本臨床検査専門医会、一般社団法人日本臨床検査振興協議会

後援団体：厚生労働省、日本医師会、日本看護協会、日本病院会、全日本病院協会、
日本臨床検査医学会、日本臨床検査振興協議会、日本臨床検査振興協議会、
日本衛生検査振興協議会

全国各会場の開催日程・会場は当会HPの特設ページでご確認ください。

<https://www.jamt.or.jp/kenken/>

（編集後記） 今年も臨床検査の日が近づいてきました。中央会場である岐阜県を始め全国で「検査と健康展」の開催に向け準備をされていると思います。平成25年の第1回中央会場は群馬県でしたが、群馬は以前から独自の健康展を開催しており、過去には新聞や市町村や民間の広報誌などの広報を頑張り過ぎて延べ参加人数1,277人が集まってしまい、大変だったことがありました。検査と健康展の目的は「臨床検査のことと、それを担う私たち臨床検査技師のことを国民の皆様にも広く知っていただくため」ですので、全国の皆様頑張りましょう。

（井田）